

II 青谷上寺地遺跡第17次発掘調査の出土遺物—石器・玉類を中心として—

湯村 功

1 はじめに

青谷上寺地遺跡第17次発掘調査は、遺跡中心域内部における集落機能の確認等を目的として、平成28・29年度に鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室（当時）が実施し、令和2年に2分冊の報告書が刊行された（鳥取県2020）。出土遺物は、各種の玉類とその製作関連遺物、銅鏃・貨泉・近畿型銅戈といった青銅器など多岐にわたり、玉類の生産や青銅器の加工に関連する場が近傍に存在するものと考えられている。

こうした遺物の概要は報告書に示されており、玉類・金属器・木器・骨角器はほぼ網羅されているが、土器に次ぐ出土量が確認された石器はその大部分が未報告である。また調査時に掘削した遺構埋土や遺物包含層を1mm目のカゴの中で水洗し、多量の微細遺物を回収しているが、これも詳細は未報告である。

本稿は石器・玉類、それらの製作に関連する遺物及び微細遺物を分類、再整理し、点数と重量を層位・遺構面ごとに集計した結果を示すものである。紙幅の関係で必要最小限の説明に留めるが、青谷上寺地遺跡の集落像の解明に寄与できれば幸いである（註1）。

なお第17次発掘調査は35×15mの範囲を調査しているが、壁面崩落防止のため勾配を確保しながら掘り下げており、実質的な平面積は350㎡ほどである。また史跡の調査であるため、全面の掘り下げは6a層下面遺構の検出面までで、それより下層の調査は遺構分布の少ない箇所を選んで行われている。そのため7a層の掘り下げと7a層下面遺構の検出範囲は20㎡程度、8a層～12a層の掘り下げは3㎡程度の範囲にとどまっている。

2 石器の分類と集計

石器は礫石器と剥片石器に大別する（註2）。

(1) 礫石器

石斧・石庖丁・大型直縁刃石器及びそれらの素材、敲石・砥石・台石、用途が特定できないものなどがあり、864点、347kg余りを数える（表1・2。表の重量はg、以下同じ）。

点数が多いのは敲石・砥石・台石で444点（註3）、次いで大型直縁刃石器の素材が141点である。また伐採石斧や加工用石斧・石庖丁等の素材と考えられる、硬質・緻密な石材を直方体状に成形しようとしたものが75点あり、これらが礫石器全体の76.3%を占めている。

石斧や石庖丁などの定型的な石器のうち完形またはそれに近いものは、石錘9点、扁平片刃石斧3点、鑿形石器2点、柱状片刃石斧1点と凹石が1点で、破片や再加工品が多い。

表1・2の棒状石製品から右、赤色顔料が付着した礫までは具体的な用途が分からないもので、定型的な石器と同数認められた。このうち辰砂の原石は岩石中に水銀朱が脈状に嵌入したもので、2点確認された（写真1）。水銀朱の脈は極めて微細なものであるため、赤色顔料の素材としてこのような原石が持ち込まれたとは考えにくく、その意図は不明である。

(2) 剥片石器

ガラス質安山岩、黒曜石、瑪瑙・玉髓、その他石材に分類した。

ガラス質安山岩製遺物は、石鏃などのほか、原石・剥片・碎片がある（表3）。剥片・碎片は石鏃の大きさを念頭に、縦横1.5cm以上を剥片、それ未満を碎片とした（以下、同じ）。石鏃は形態が分かる15点のう

表1 礫石器の点数

	伐採石斧	扁平片刃 石斧	柱状片刃 石斧	鑿形石器	楔	敲石	砥石 (粗粒)	砥石素材 (粗粒)	砥石 (細粒)	砥石素材 (細粒)	磨石	台石	石庖丁	大型直縁 刃石器
2 a層下面遺構	1	2				8	6	1	1			1		4
3 a層～4 a層						1								
4 a層						1						1		2
4 a層～4 a層下部														
4 a層下部		1	1			15	6	2	19		2	3	4	
4 a層下部～5 a層						1		1	3				1	
4 a層下面遺構								1						
4 a層以下	2	1				16	3	1	7		3	2		1
5 a層	1	3			1	17	6		10		3	4	1	5
5 a層下部		1			1	8	1	1	1	4		3	2	2
5 a層下面遺構	1					10	8	2	5	2		5		5
5 a層以下						2	2		5	1		2		2
5 a層～7 a層														
6 a層		3	1	2	7	21	21	4	26		2	4	1	9
6 a層下部						1	2		3			2		
6 a層下面遺構	1	1			1	32	10	2	11		3	13	1	10
6 a層以下						1	3		3					1
7 a層						1	3		2	1		1		
7 a層下部						2						1		1
7 a層下面遺構								1				1		
7 a層以下					1		1							
8 a層						2		1	1			1		
8 a層以下		1				5	3		3			2	1	1
9 a層						1								
1 1 a層								1						
1 2 a層												1		
時期不明	1	4	1			13	7	5	14	2	3	10	2	6
計	7	17	3	2	11	158	82	23	114	10	16	57	13	49

表2 礫石器の重量

	伐採石斧	扁平片刃 石斧	柱状片刃 石斧	鑿形石器	楔	敲石	砥石 (粗粒)	砥石素材 (粗粒)	砥石 (細粒)	砥石素材 (細粒)	磨石	台石	石庖丁	大型直縁 刃石器
2 a層下面遺構	2.487	7.330				3,689.749	1,579.185	14.339	14.908			273.571		872.051
3 a層～4 a層						329.728								
4 a層						64.036						184.601		41.244
4 a層～4 a層下部														
4 a層下部		32.500	86.900			5,319.431	343.728	434.897	746.362		186.780	1,670.792	38.230	
4 a層下部～5 a層						118.455	22.495		773.743				4.603	
4 a層下面遺構							202.944							
4 a層以下	16.161	13.888				8,852.094	519.626	24.731	342.682		566.990	2,997.168		56.948
5 a層	40.607	18.965			53.383	6,953.207	721.786		535.506		1,316.711	3,317.751	5.744	800.769
5 a層下部		1.533			34.471	4,169.698	148.992	7.934	8.570	208.868		3,662.181	944.400	379.961
5 a層下面遺構	4.202					4,794.940	300.356	88.095	316.365	17.274		9,247.261		1,751.652
5 a層以下						1,071.331	42.830		351.165	38.011		1,415.700		146.033
5 a層～7 a層														
6 a層		147.108	255.400	12.100	163.493	7,504.614	3,255.494	234.934	743.884		203.842	3,992.114	1.755	484.473
6 a層下部						188.316	8.446		10.022			1,437.941		
6 a層下面遺構	5.927	9.536			6.073	18,435.255	1,785.822	173.636	275.804		3,267.500	16,285.787	190.642	1,801.128
6 a層以下						249.421	40.874		75.386					6.392
7 a層						320.058	882.040		14.744	13.016		21,190.000		
7 a層下部						732.081						364.581		277.865
7 a層下面遺構								43.668				475.600		
7 a層以下					193.055		36.327							
8 a層						1,823.000		21.286	6.306			736.100		
8 a層以下		6.300				3,770.300	786.220		4,038.468			1,485.487	40.916	10.817
9 a層						470.500								
1 1 a層								2,651.000						
1 2 a層												3,344.300		
時期不明	1.193	442.231	51.431			5,528.506	921.967	3,219.099	328.332	11.040	2,075.900	15,344.711	433.500	591.853
計	70.577	679.391	393.731	12.100	450.475	74,384.720	11,599.132	6,913.619	8,582.247	288.209	7,617.723	87,425.646	1,659.790	7,221.186

II 青谷上寺地遺跡第17次発掘調査の出土遺物—石器・玉類を中心として—

大型直縁刃 石器素材	石鍬	凹石	石錘	石斧か 石庖丁	石斧等の 素材	紡輪	棒状 石製品	研磨 された礫	擦痕の ある礫	線刻の ある礫	施溝の ある礫	摩滅痕の ある礫	辰砂の 原石	赤色顔料が 付着した礫	礫石器の 破片	器種不明	計
2			2	2	4			1	2				1				38
																	1
4																	8
			1														1
6			2		2		2		1	1					1		68
					1												7
					1												2
5			2		5		1		2								51
9	1	1		1	6		1	2	1					1	1		75
5	1	1			1	1						1					34
14				2	5				2								61
3																	17
1																	1
26			4	4	11			4	2						1		153
2					1				1								12
38				3	22			2	2			2	1	2		1	158
1					2												11
3			1		1		1	1	1	1							17
2																	6
1																1	4
																	2
3			1	2	1												12
1					3												20
3	1																5
					1												2
1																	2
11					8		1		5	1	1				1		96
141	3	2	13	14	75	1	6	10	19	3	1	3	2	3	4	2	864

大型直縁刃 石器素材	石鍬	凹石	石錘	石斧か 石庖丁	石斧等の 素材	紡輪	棒状 石製品	研磨 された礫	擦痕の ある礫	線刻の ある礫	施溝の ある礫	摩滅痕の ある礫	辰砂の 原石	赤色顔料が 付着した礫	礫石器の 破片	器種不明	計
667.206			49.043	2.707	4,759.493			62.691	178.586				3.242				12,177
																	330
308.539																	598
			11.534														12
3,544.960			43.764		602.523		28.679		37.754	17.351					20.069		13,155
					875.800												1,795
					2,010.700												2,214
816.611			71.142		2,881.442		16.235		184.262								17,360
1,568.927	362.082	70.536		0.018	2,753.740		3.867	309.275	250.197					4.546	9.539		19,097
3,492.141	356.880	9.144			106.038	8.570						195.233					13,735
10,430.644				2.912	1,152.647				31.440								28,138
834.264																	3,899
16.234																	16
7,085.600			179.727	8.568	3,532.611			142.166	609.242						113.957		28,671
542.004					381.700				109.253								2,678
41,389.352				2.869	16,021.134			11.623	501.702			446.397	20.026	153.260		0.066	100,784
662.700					1,293.056												2,328
1,208.488			6.700		170.166		8.075	234.156	136.485	147.627							24,332
367.949																	1,742
161.661																20.000	701
																	229
276.039			2.717	2.089	46.017												2,914
8,820.000					3,146.206												22,105
138.025	35.923																644
					84.478												2,735
33.047																	3,377
3,400.691					6,190.220		13.700		2,812.536	40.263	74.011				12.522		41,494
85,765.082	754.885	79.680	364.627	19.163	46,007.971	8.570	70.556	759.911	4,851.457	205.241	74.011	641.630	23.268	157.806	156.087	20.066	347,258.557

ち凹基式が12点、平基式が3点である。このうち器体に素材面を残すものは14点である。楔形石器は剥片に両極剥離を加えたもので、素材面を残すものが多いことから、石鏃製作に関連する可能性がある。ガラス質安山岩製遺物は、11,652点、10kg余りを数える。剥片・碎片の点数が全体の99%を占めている。

黒曜石製遺物も石鏃などのほか、原石・剥片・

碎片がある(表4)。石鏃は2点とも凹基式で、器体に素材面を残す。黒曜石製遺物は、687点、112g余りを数える。やはり剥片・碎片の点数が全体の約99%を占めている。

ガラス質安山岩とは見た目が異なる石材や、黒曜石、瑪瑙・玉髓でもない石材を用いた石鏃・楔形石器等が認められたため、その他石材としてまとめた(表5)。1,417点、2.5kg余りを数

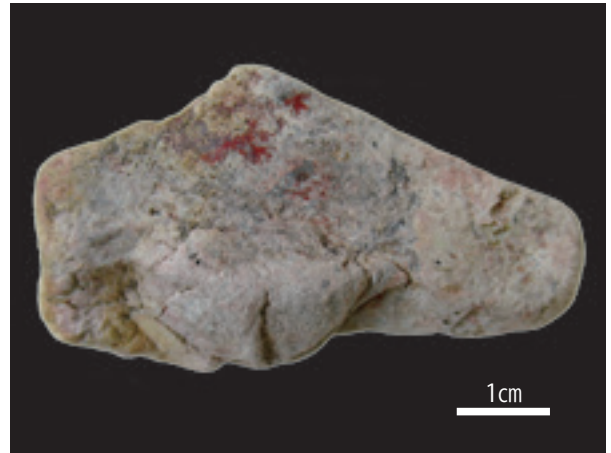
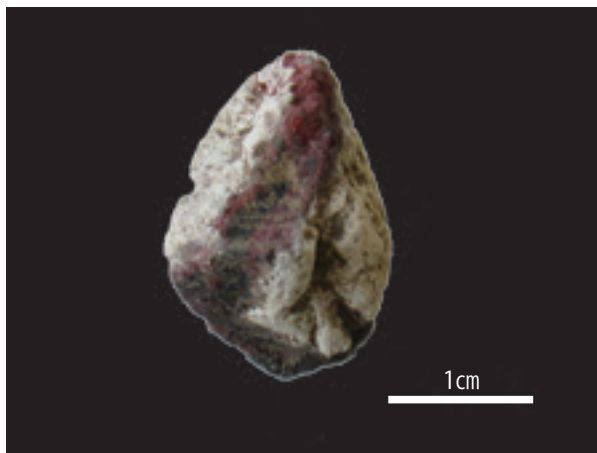


写真1 辰砂の原石(左:2a層下面遺構出土、右:6a層下面遺構出土)

表3 ガラス質安山岩製遺物の点数・重量

	石鏃		石鏃未成品		石鏃		石鏃未成品		打製石砲丁		2次加工のある剥片		楔形石器		原石・分割際		石核		剥片		碎片		計			
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
2a層下面遺構	2	2.473											1	4.655	3	855.368	1	10.274	37	189.682	10	0.889	54	1,063.341		
2a層													1	3.029									1	3.029		
4a層下部	3	3.354											2	3.134	1	97.583	1	13.235	23	182.829	17	1.517	47	301.652		
4a層下部~5a層													1	4.225	2	320.909	1	269.748	1	6.176	7	0.694	12	601.752		
4a層下面遺構																			1	23.560			1	23.560		
4a層以下	1	0.800				1	2.203	1	1.455	1	3.488				1	320.068			11	8.969	16	1.752	32	338.735		
5a層											1	2.562	1	1.838	3	2,272.100			15	54.571	1	0.028	21	2,331.099		
5a層下部			1	2.100								1	3.813					4	34.679				6	40.592		
5a層下面遺構	2	3.006							1	2.027	1	1.314	2	3.622					17	27.553	239	7.438	262	44.960		
5a層以下																			3	15.770			3	15.770		
5a層~7a層													1	19.667									1	19.667		
6a層	7	5.917	2	2.793		1	1.877	2	4.691	2	3.177	12	35.262	1	775.800					129	238.373	7,515	170.282	7,671	1,238.172	
6a層下部	1	1.400			1	0.767						1	14.517							16	11.122	474	20.155	493	47.961	
6a層下面遺構	2	2.027			2	0.525							8	39.304	2	442.666					73	822.050	2,052	70.594	2,139	1,377.166
6a層以下													2	3.764						5	44.089	1	0.086	8	47.939	
6a層~7a層																				3	2.448			3	2.448	
6a層~8a層																						1	0.204	1	0.204	
7a層						1	0.354					1	2.365							10	69.258	299	13.854	311	85.831	
7a層下部																				6	4.968	54	2.308	60	7.276	
7a層下面遺構																				1	8.074	16	1.257	17	9.331	
7a層以下																				1	0.563			1	0.563	
8a層	1	1.397							1	12.193				1	435.800	1	191.400			5	40.901	31	1.644	40	683.335	
8a層以下								1	8.529	2	33.143	5	25.113			1	151.306			5	32.893	2	0.204	16	251.188	
9a層																				2	124.544			2	124.544	
11a層																						25	1.146	25	1.146	
12a層	1	0.400													1	926.600			18	27.332	108	6.837	128	961.169		
時期不明	2	1.623	1	0.465								6	33.818	5	1,081.565					30	137.340	253	11.320	297	1,266.131	
計	22	22.397	4	5.358	3	1.292	3	4.434	6	28.895	7	43.684	45	198.126	20	7,528.459	5	635.963	416	2,107.744	11,121	312.209	11,652	10,888.561		

え、これも剥片・碎片の点数が全体の99%を占めている。あくまで肉眼観察による分類なので、剥片・碎片の中にはガラス質安山岩に分類すべきものや、白玉の素材である滑石などを含んでいる可能性がある。また礫石器の破片・破片も含まれるかもしれない。

瑪瑙・玉髓製遺物も1,061点、243g余りが確認された(表6)。この石材を用いた玉類とその製作関連遺物はないため、剥片石器に含めた。剥片・碎片の点数が全体の約98%を占める。楔形石器が17点認められ、その特徴はガラス

質安山岩・黒曜石を用いたものと変わらない。2次加工のある剥片のうち1点は、石錐もしくは石針の未成品の可能性があり、瑪瑙・玉髓は工具の製作に用いられていた可能性がある。

3 玉類の分類と集計

第17次発掘調査で出土した玉類とその製作関連遺物から、碧玉質岩製の管玉、水晶・石英製の算盤玉、ガラス製の小玉・勾玉・管玉、滑石製白玉が製作されていたことが分かる。

表4 黒曜石製遺物の点数・重量

	石鏃		楔形石器		原石・分割礫		石核		剥片		碎片		計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
1 a層～3 a層									2	4.292			2	4.292
2 a層下面遺構			1	3.770			1	6.190					2	9.960
4 a層下部			1	2.330	1	2.272					3	0.173	5	4.775
4 a層以下	1	0.731							1	0.286	2	0.604	4	1.621
5 a層									3	8.371			3	8.371
5 a層下部									1	0.865			1	0.865
5 a層下面遺構											10	0.231	10	0.231
6 a層	1	0.582	1	0.887			1	21.085	5	7.731	257	10.015	265	40.300
6 a層下部									2	1.613	36	1.394	38	3.007
6 a層下面遺構									4	4.580	99	2.747	103	7.327
7 a層									3	2.421	47	1.344	50	3.765
7 a層下部									1	1.296	14	2.605	15	3.901
7 a層下面遺構									1	0.590	3	0.150	4	0.740
8 a層									1	2.216	36	1.038	37	3.254
1 1 a層									1	1.948	29	0.762	30	2.710
1 2 a層											93	3.291	93	3.291
時期不明			1	2.716					2	10.804	22	0.531	25	14.051
計	2	1.313	4	9.703	1	2.272	2	27.275	27	47.013	651	24.885	687	112.461

表5 その他の石材製遺物の点数・重量

	2次加工のある剥片		楔形石器		原石・分割礫		石核		剥片		碎片		計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
2 a層下面遺構									7	38.645	3	0.408	10	39.053
2 a層									1	2.496			1	2.496
4 a層下部							1	7.832	5	33.455	3	0.185	9	41.472
4 a層下部～5 a層					1	304.174			3	12.773	1	0.014	5	316.961
4 a層以下									1	2.546			1	2.546
5 a層			2	7.395	1	1,192.700			5	30.671			8	1,230.766
5 a層下面遺構	1	44.023							11	35.591	255	11.068	267	90.682
5 a層以下									1	2.452	15	1.665	16	4.117
6 a層	1	89.403	2	5.129					23	58.566	471	16.092	497	169.190
6 a層下部									6	11.121	21	0.890	27	12.011
6 a層下面遺構			1	1.852					6	179.954	281	11.847	288	193.653
6 a層以下									1	2.556			1	2.556
7 a層									2	1.630	13	0.815	15	2.445
7 a層下部									2	1.439	5	2.892	7	4.331
8 a層以下							1	72.418	1	8.446	1	0.411	3	81.275
1 1 a層									1	5.685			1	5.685
1 2 a層									11	6.759	227	10.386	238	17.145
時期不明							2	261.678	11	80.898	10	1.375	23	343.951
計	2	133.426	5	14.376	2	1,496.874	4	341.928	98	515.683	1,306	58.048	1,417	2,560.335

(1) 碧玉質岩製管玉と製作関連遺物

報告書において分類と集計結果が示されているが、再整理によって点数が増えたため、改めて表7に結果を示す。碧玉質岩には緻密なものと同粗粒のものがあり、それぞれ剥片・碎片の点数が全体の約96%を占めること、素材から成品に至る一連の遺物が出土していることから、

ここで管玉製作が行われていたことは明らかである。管玉には穿孔途中の破損品なども含めているが、素材の点数と比較すると成品率が高いと思われる。

特筆すべきものとして、微細遺物を分類中に発見した円錐形碎片がある(写真2)。2点検出され、いずれも片側の面の中心が突起状に盛

表6 瑪瑙・玉髓製遺物の点数・重量

	楔形石器		2次加工のある剥片		原石		石核		剥片		碎片		計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
2 a層下面遺構	1	2.240	1	3.705	1	9.035			6	21.825	2	0.387	11	37.192
4 a層下部					2	19.418	1	11.971	3	10.636	7	1.633	13	43.658
4 a層下部～5 a層											1	0.010	1	0.010
4 a層以下									1	6.199	2	0.350	3	6.549
5 a層	2	2.381							3	3.610	1	0.068	6	6.059
5 a層下面遺構									1	3.331	20	4.800	21	8.131
6 a層	8	10.880	1	0.246					4	4.842	512	26.426	525	42.394
6 a層下部	1	5.419							3	4.067	38	2.154	42	11.640
6 a層下面遺構	1	0.696					1	15.248	2	1.526	243	15.477	247	32.947
6 a層以下									2	4.318			2	4.318
7 a層									2	1.512	76	4.951	78	6.463
7 a層下部									1	0.962	18	1.611	19	2.573
7 a層下面遺構	1	10.347							1	0.800	4	0.310	6	11.457
8 a層	1	1.279							1	1.366	11	0.940	13	3.585
8 a層以下									4	11.562			4	11.562
1 1 a層											2	0.814	2	0.814
1 2 a層	1	1.062							2	3.229	21	2.288	24	6.579
時期不明	1	0.678							2	4.794	41	2.008	44	7.480
計	17	34.982	2	3.951	3	28.453	2	27.219	38	84.579	999	64.227	1,061	243.411

表7 碧玉質岩製管玉と製作関連遺物の点数・重量

粗密の別	緻密													
	管玉		管玉未成品～ 四角柱状材		板状材、 直方体材		原材、除去片		剥片		碎片		小計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
2 a層下面遺構	2	0.415	5	5.177			1	11.370	3	9.947	11	0.783	22	27.692
4 a層下部	4	1.534	1	8.107	1	6.909			1	1.443	10	1.244	17	19.237
4 a層下部～5 a層											1	0.012	1	0.012
4 a層以下	1	0.069			1	3.393					3	0.023	5	3.485
4 a層下面遺構														
5 a層	1	0.337	4	12.523	1	0.109			2	1.685	17	4.059	25	18.713
5 a層下部	1	0.397	2	1.425	2	28.185	1	55.058	3	3.711	4	0.501	13	89.277
5 a層以下											1	0.027	1	0.027
5 a層下面遺構	2	0.193			1	9.953	1	5.889	1	0.602	62	1.593	67	18.230
6 a層	31	1.722	11	7.972	3	13.647	7	41.958	6	6.824	1,932	21.531	1,990	93.654
6 a層下部	4	0.733	1	0.392					2	1.645	178	2.187	185	4.957
6 a層以下							3	31.924			2	0.386	5	32.310
6 a層下面遺構	19	1.366	1	0.246	3	28.678	5	31.034	3	6.386	631	7.978	662	75.688
7 a層			1	0.061			1	4.112	2	4.297	93	1.581	97	10.051
7 a層下部			1	0.344					1	2.815	47	0.375	49	3.534
7 a層下面遺構			1	2.885							1	0.017	2	2.902
8 a層					1	20.247			1	0.569	7	0.578	9	21.394
8 a層以下			1	8.543	1	23.684	1	6.575					3	38.802
1 1 a層											7	0.337	7	0.337
1 2 a層											1	0.002	1	0.002
時期不明	3	0.073	1	4.377	3	13.262	3	79.034	3	4.833	82	1.419	95	102.998
計	68	6.839	30	52.052	17	148.067	23	266.954	28	44.757	3,090	44.633	3,256	563.302

り上がり、さらにそれを囲んで環状の盛り上がり
が形成されている。これは第17次発掘調査
で検出された石針のうち、丸みを帯びた先端部
の中央付近が窪むものに対応しそうで、管玉の
紐孔を片面穿孔した際の貫通時に、管玉端部が
剥離したものと思われる。いずれも極小で、写
真2左は縦横2mm、右は長軸2.5mm、短軸1.5
mmほどである。

(2) 水晶・石英製算盤玉と製作関連遺物

ここで水晶・石英としたものは、無色透明な

ものばかりではなく、やや白くくすんだものも
含めている。石英は遺跡土壤中に堆積物として
含まれているものや土器胎土の混和材として使
用されたものが存在しうる。こうしたものを排
除するため、シャープな剥離面や縁辺を有する
ものを抽出した。

碧玉質岩製遺物と同様に、剥片・碎片の点数
が全体の97%を占める。また算盤玉が21点
検出されているが、素材や原材は少なく成品率
が高い(表8)。

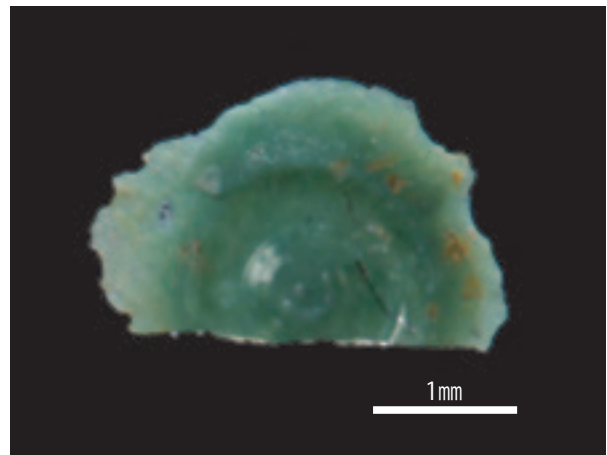
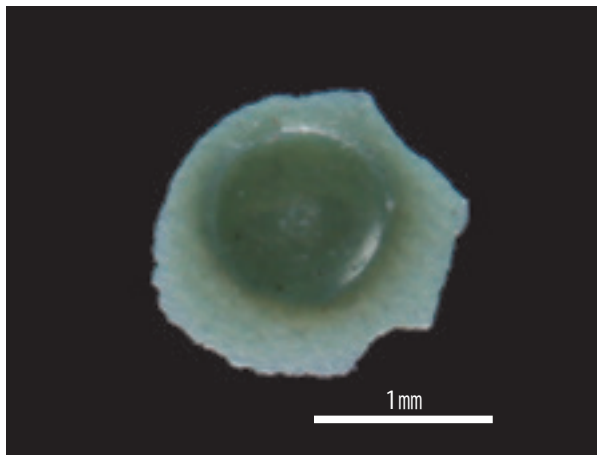


写真2 碧玉質岩製の円錐形碎片

管玉		粗粒												蛋白石		計	
点数	重量	管玉未成品～ 四角柱状材		板状材、 直方体材		原材、除去片		剥片		碎片		小計		管玉		点数	重量
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
1	0.094							1	0.506	1	0.327	3	0.927			25	28.619
2	0.521					1	9.083	1	2.315			4	11.919			21	31.156
																1	0.012
1	0.130	1	0.658							15	1.005	17	1.793			22	5.278
1	0.047											1	0.047			1	0.047
		1	2.341	1	27.099					1	0.016	3	29.456			28	48.169
																13	89.277
1	1.093					1	13.043			2	0.225	4	14.361			5	14.388
1	0.169									23	0.796	24	0.965			91	19.195
18	4.390	2	0.570	3	5.442			11	12.679	1,242	21.865	1,276	44.946	1	0.068	3,267	138.668
6	1.099									84	2.241	90	3.340			275	8.297
																5	32.310
2	0.659	2	0.446	1	2.443	10	47.122	3	5.761	304	5.528	322	61.959			984	137.647
										16	0.552	16	0.552			113	10.603
										4	0.032	4	0.032			53	3.566
																2	2.902
				2	13.066					1	0.138	3	13.204			12	34.598
																3	38.802
																7	0.337
										1	0.053	1	0.053			2	0.055
2	1.594			1	1.556			1	2.081	19	0.524	23	5.755			118	108.753
35	9.796	6	4.015	8	49.606	12	69.248	17	23.342	1,713	33.302	1,791	189.309	1	0.068	5,048	752.679

表8 水晶・石英製算盤玉製作関連遺物の点数・重量

	算盤玉		四角柱状材		板状材、 直方体材		原材		剥片		碎片		計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
2 a層									1	2.935			1	2.935
4 a層下部					1	8.358	1	5.573	5	70.795	1	0.622	8	85.348
4 a層以下	1	0.082									1	0.480	2	0.562
5 a層					2	8.304			3	18.716			5	27.020
5 a層下部			1	1.049									1	1.049
5 a層以下									1	2.680			1	2.680
5 a層下面遺構											25	0.402	25	0.402
6 a層	13	1.415			1	25.069			5	14.541	396	8.543	415	49.568
6 a層下部	2	0.209									17	0.123	19	0.332
6 a層以下									1	9.634			1	9.634
6 a層下面遺構	5	0.254							5	8.429	324	15.119	334	23.802
7 a層											57	0.745	57	0.745
7 a層下部											3	0.040	3	0.040
7 a層下面遺構											3	0.070	3	0.070
8 a層											1	0.015	1	0.015
1 2 a層											2	0.108	2	0.108
時期不明							1	6.945	4	15.068	181	3.349	186	25.362
計	21	1.960	1	1.049	4	41.731	2	12.518	25	142.798	1,011	29.616	1,064	229.672

表9 ガラス玉製作関連遺物の点数・重量（遺構別・層位別）

	小玉		勾玉		管玉		小玉再加工品		ガラス玉?		碎片		ガラス塊		ガラス粒		ガラス片		計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
1 a層	1	0.054																	1	0.054
2 a層下面遺構	5	0.681																	5	0.681
4 a層下部			1	1.063											1	0.006			2	1.069
4 a層以下	4	0.082			1	0.338													5	0.420
4 a層下面遺構																			0	0.000
5 a層	9	0.703			1	0.093													10	0.796
5 a層下面遺構	4	0.151														1	0.001	5	0.152	
6 a層	132	5.912	1	0.546	8	1.420	1	0.231	1	0.011	14	0.102	4	0.935			11	0.034	172	9.191
6 a層下部	1	0.019			2	0.398					2	0.003			2	0.005	3	0.007	10	0.432
6 a層以下	1	0.078																	1	0.078
6 a層下面遺構	25	1.269			4	0.253					8	0.082			7	0.008	8	0.086	52	1.698
7 a層	3	0.109			2	0.107									1	0.001	1	0.001	7	0.218
8 a層											1	0.001							1	0.001
1 2 a層											1	0.001							1	0.001
不明	11	0.572	1	0.339	2	0.081					1	0.004	1	0.320			4	0.114	20	1.430
計	196	9.630	3	1.948	20	2.690	1	0.231	1	0.011	27	0.193	5	1.255	11	0.020	28	0.243	292	16.221

表10 ガラス玉製作関連遺物の点数・重量（色調別）

	小玉		勾玉		管玉		小玉再加工品		ガラス玉?		碎片		ガラス塊		ガラス粒		ガラス片		計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
淡青色	109	5.176			1	0.184					17	0.092					2	0.004	129	5.456
青色	27	1.583	1	0.339	4	0.408					1	0.013	1	0.320					34	2.663
紺色	59	2.368									1	0.001							60	2.369
緑色					2	0.428									11	0.020			13	0.448
くすんだ淡青色					3	0.438					5	0.053					5	0.058	13	0.549
くすんだ青色																	5	0.035	5	0.035
くすんだ緑色													1	0.001			10	0.029	11	0.030
白く風化した青色					7	0.657											3	0.005	10	0.662
白く風化した緑色			2	1.609	3	0.575	1	0.231			3	0.034					1	0.005	10	2.454
黒く風化した緑色	1	0.503																	1	0.503
灰白色													2	0.777					2	0.777
透明									1	0.011			1	0.157			2	0.107	4	0.275
計	196	9.630	3	1.948	20	2.690	1	0.231	1	0.011	27	0.193	5	1.255	11	0.020	28	0.243	292	16.221

表 11 滑石製白玉の点数・重量

	白玉	
	点数	重量
4 a 層下部	3	0.225
4 a 層以下	1	0.033
4 a 層下部～5 a 層	2	0.183
5 a 層下面遺構	2	0.112
6 a 層	22	0.979
6 a 層下部	2	0.139
6 a 層下面遺構	6	0.344
7 a 層	4	0.270
不明	9	0.792
計	51	3.077

表 12 石針・石鋸・石鋸状石器の点数・重量

	石針		石鋸		石鋸状石器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量
2 a 層下面遺構	1	0.073				
4 a 層下部			1	7.000		
5 a 層			1	2.800	1	21.313
5 a 層下部			1	3.500		
5 a 層下面遺構			6	3.204		
6 a 層	20	0.902	28	15.657		
6 a 層以下			1	5.151		
6 a 層下部	4	0.296	1	0.230		
6 a 層下面遺構	4	0.231	13	1.873		
7 a 層			1	1.700		
7 a 層下部	1	0.022				
7 a 層下面遺構			1	7.300		
8 a 層			1	1.810		
8 a 層以下			1	3.500		
11 a 層					1	6.978
時期不明	3	0.057	1	2.379	1	10.201
計	33	1.581	57	56.104	3	38.492

(3) ガラス製玉類と製作関連遺物

報告書において分類と集計結果が示されているが、再整理によってわずかに点数が増加したため、改めて表 9 に結果を示す。小玉・勾玉・管玉・小玉再加工品の数は報告書と変わりがないが、6 a 層出土遺物の中に無孔で透明・球状のものがあり、ガラス玉？として加えた。ガラス製玉類は 221 点が確認されており、このうち 196 点を占める小玉が製作の主目的であったことが分かる。

報告書でも指摘されているが、ガラス製玉類の製作関連遺物としてガラスが溶着したようなもの、粒状に固まったもの、玉類の破片ではないと思われるかけらがあり、それぞれガラス塊・ガラス粒・ガラス片としている。ガラス製玉類の鑄造に関わるものと思われる。

ガラス製玉類と色調を整理したものが表 10 である。ガラス製玉類のうち 26 点について、蛍光 X 線分析法により基礎ガラスの調査が行われており、報告書では色調との対比がなされている。それによるとカリガラスは淡青色・青色・紺色を、ソーダ石灰ガラスは青色を、鉛バリウムガラスは緑色を、それぞれ呈しており、小玉はカリガラス主体、勾玉・管玉は鉛バリウムガラス主体であることが分かっている。

(4) 滑石製白玉

再整理によって報告書刊行時よりわずかに点数が増えたため、表 11 に示した。すべて白玉であるが、剥片石器のその他石材としたものの中に、白玉製作に伴う剥片・破片を含んでいるかもしれない。

(5) 玉類の製作に使用された遺物

石針・石鋸・石鋸状石器を表 12 に掲げた。石針はガラス質安山岩を用いた磨製のもので 33 点検出した。径は 0.85mm から 2.26mm までと幅があるが、先端に回転運動によると思われる摩滅があり、円錐形破片に刻まれた痕跡と類似することから、碧玉質岩製管玉の製作に使用されたものであろう。石鋸は片岩製で 57 点を数える。このほか板状安山岩等の剥片の末端に、長軸方向に沿った摩滅痕が認められるものがあり、石鋸状石器とした。弥生時代中期後葉の水晶製玉類の製作遺跡である西高江遺跡(北栄町)にも同じものがあり(湯村 2017a)、玉類の製作に関わる遺物ではないかと思われる。

4 その他の遺物の分類と集計

石器・玉類のほかに顕著に認められたものを掲げておく。

表 13 土製品の点数・重量

	土玉		被熱粘土	
	点数	重量	点数	重量
表土・耕作土			1	5.995
2 a層下面遺構	34	358.018	2	9.340
3 a層～4 a層	2	24.179		
4 a層	2	9.121		
4 a層～7 a層	1	8.039		
4 a層以下	43	594.939	1	1.435
4 a層下部	199	1,804.605	7	53.302
4 a層下部～5 a層	14	118.144		
4 a層下部以下	2	30.247		
4 a層下面遺構				
5 a層	69	747.701	8	29.556
5 a層～7 a層	1	7.206		
5 a層以下	11	157.423	1	3.379
5 a層下部	17	197.590	5	53.459
5 a層下面遺構	25	178.891	6	41.329
6 a層	125	1,115.734	7	36.758
6 a層～8 a層	1	2.835		
6 a層以下	13	151.386	5	46.968
6 a層下部	10	14.513	3	13.556
6 a層下面遺構	65	511.299	74	137.812
7 a層	16	135.099	6	21.583
7 a層下部	3	8.765	3	5.797
7 a層下面遺構				
8 a層	7	63.224		
8 a層以下	15	173.857	1	3.037
1 1 a層				
1 2 a層			1	0.248
時期不明	91	927.189	2	9.548
計	766	7,340.004	133	473.102

表 14 炭化米の点数・重量

	完存		完存でない		計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量
5 a層下面遺構	530	3.838	260	1.086	790	4.924
6 a層	572	4.086	203	0.921	775	5.007
6 a層下部	1,281	8.100	520	1.819	1,801	9.919
6 a層下面遺構	7,781	49.070	4,987	18.447	12,768	67.517
7 a層	704	4.544	331	1.304	1,035	5.848
7 a層下部	148	0.938	59	0.227	207	1.165
7 a層下面遺構	15	0.084	8	0.030	23	0.114
8 a層	57	0.347	24	0.071	81	0.418
1 1 a層	18	0.107	9	0.021	27	0.128
1 2 a層	60	0.411	42	0.171	102	0.582
時期不明	484	3.681	90	0.424	574	4.105
計	11,650	75.206	6,533	24.521	18,183	99.727

表 15 石器・玉類が多く出土した層・遺構面

	4 a層	5 a層	5 a層	5 a層	6 a層	6 a層	6 a層	7 a層	7 a層	計	時期不明以外	A / B
	下部		下部	下面遺構		下部	下面遺構		下部			
礫石器	68	75		61	153		158			515	768	67.0
剥片石器	ガラス質安山岩			262	7,671	493	2,139	311	60	10,936	11,355	96.3
	黒曜石				265		103	50		418	662	63.1
	その他石材			267	497		288			1,052	1,394	75.4
	瑪瑙・玉髓				525		247	78		850	1,017	83.5
玉関連	碧玉質岩			91	3,267	275	984	113	53	4,783	4,930	97.0
	水晶・石英				415		334	57		806	878	91.7
	ガラス				172		52			224	272	82.3
	滑石				22					22	42	52.3
	石針				20					20	30	66.6
石鋸					28		13			41	56	73.2

(1) 土玉・被熱粘土

土玉は2～3cm大の球状のもので、有孔720点、無孔31点、欠損のため断定できないが無孔かと思われるもの3点の、計754点が出土している(表13)。青谷上寺地遺跡からは、第17次調査以外でも土玉が多数出土している。全体の数を把握できていないが、第1次調査国道調査区での出土数が1,755点と報告されている(財団法人鳥取県教育文化財団2001)。調査面積で比較すると、第17次発掘調査地の出土数はかなり多いといえる。被熱粘土は変色・硬化した粘土塊で133点出土した(表13)。

(2) 炭化米

完存またはそれに近いもので1個体と数えられるものが11,650点、欠損しているものが6,533点の、計18,183点が検出された(表14)。複数個体が固着して塊となったものはなく、脱穀された後に炭化したものと思われる。

5 石器・玉類の所属時期

第17次発掘調査地の土層は1a層から12a層に分けられ、遺構検出は層界で行われている。各層に含まれる遺物と遺構面の時期は次のとおりである(「時代」は省略)。

1 a層：近代以降

2 a層・2 a層下面遺構・3 a層：近世以前

4 a層：弥生後期～古代

(主体は弥生後期～古墳前期)

4 a層下面遺構：古墳後期～古代

5 a層：弥生後期～古墳後期

5 a層下面遺構：古墳前期～後期

6 a層：弥生中期～古墳前期

(主体は弥生終末期～古墳前期)

6 a層下面遺構：弥生終末期～古墳前期

7 a層：弥生前期～終末期

(主体は弥生後期～終末期)

7 a層下面遺構：弥生中期～終末期

8 a層～12 a層：弥生前期～中期

表1から表12を基に、滑石製遺物・石針・石鋸は10点以上、それ以外の遺物は50点以上出土した土層と遺構面をまとめたのが表15である。礫石器は4 a層下部から6 a層下面遺構にかけて、剥片石器及び玉類は5 a層下面遺構から7 a層下部にかけて多く出土しており、これらは時期不明のものを除いた点数のうち、おおむね60%から90%以上を占めており、さらに絞り込めば、出土点数のピークは6 a層から6 a層下面遺構にあることが分かる。

6 a層及び6 a層下面遺構に伴う土器の主体は、弥生時代終末期から古墳時代前期であるが、6 a層からは弥生時代中期の土器も出土している。これはこの場所が何らかの活動の場として連綿と使われ続けた結果、本来下層に帰属する遺物が上層に巻き上げられていることを示している。実際、各種の石器は8 a層以下からも出土しており、特に剥片石器は弥生時代中期以前のものが含まれていると考えるのが自然のように思われる。また碧玉質岩製管玉の製作関連遺物には、施溝分割が認められるものがある。青谷上寺地遺跡では、施溝分割を伴う管玉製作は弥生時代後期には消滅したと考えられており(鳥取県埋蔵文化財センター2013)、青谷上寺地遺跡以外でも秋里遺跡・布勢遺跡(ともに鳥取市)・久蔵峰北遺跡(琴浦町)で検出された弥生時代後期の管玉製作関連遺物には施溝分割は認められない(湯村2017b・c、財団法人鳥取県教育文化財団2004)。

玉類のうち水晶・石英製、ガラス製のものは、8 a層以下からの出土はごく少ない。第17次発掘調査以前に出土したものをみても、弥生時

代中期に遡るものは少なく、弥生時代後期以降にその数を増すことが知られている(鳥取県埋蔵文化財センター2006・2013、河合2015)。滑石製白玉も8 a層以下から出土したものはない。こうしたことから水晶・石英製、ガラス製、滑石製の玉類は、弥生時代後期以降が主体であるといえそうである。

以上のように、第17次発掘調査で出土した石器・玉類は弥生時代後期から古墳時代前期に属するものと、弥生時代中期以前のものが混在していると考えられる。

6 石器・玉類からみた第17次調査地の性格

石器・玉類を中心とした出土遺物から、第17次発掘調査地の性格を考えてみたい。

礫石器は864点、347,258.557gを数える。敲石・砥石・台石の割合が高く、石斧や石庖丁、大型直縁刃石器などの素材となり得るものも多数出土していることから、こうした石器製作の場であった可能性が高い。

剥片石器は14,817点、13,804.768gを数える。ガラス質安山岩、黒曜石、瑪瑙・玉髓、その他の石材が使われており、いずれも剥片・破片の点数が98～99%を占めていることから、ここで石器製作が行われていたことは確実である。製作されていたのは石鏃・石錐であったようだ。

玉類は碧玉質岩製管玉、水晶・石英製算盤玉、ガラス製勾玉・管玉・小玉、滑石製白玉及びこれらの製作関連遺物が4,663点、812.272g出土している。石製玉類は滑石製のものを除いて成品・素材・原材が認められ、剥片・破片が96～97%を占めていること、さらに石針等の工具も出土していることから、ここで製作されていたことが分かる。素材・原材が少なく、成品・未成品・穿孔途中の失敗品が多いことから、主に仕上げに近い段階の作業が行われていたように思われる。ガラス製玉類も溶解したガラス塊・ガラス粒が認められることから、鑄造が行われていたことが分かる。ただし6 a層下面で

検出された焼土の被熱温度は 500 ～ 600℃と推定されており、ガラスを溶解するには低いと思われるし、鋳型や坩堝なども出土していない。現状ではガラス製玉類の鋳造場所は、第 17 次調査地そのものというより、その近傍にあると理解しておきたい。

青谷上寺地遺跡から出土した銅鏃は数量とバラエティに富んでおり、他地域からの流通と遺跡内での加工が想定されている（高田 2021）。第 17 次調査地は銅鏃の分布密度が最も高く、鏃身や茎を仕上げていないものが認められることから、ここか近傍に加工場があったと思われる。

青谷上寺地遺跡では木器の製作も行われているが、第 17 次発掘調査地では木器の出土点数はわずかである。鉄製工具は出土しておらず、木工用の石斧も少ない。ここでは木器製作は行われていなかったと考えられる。

第 17 次発掘調査地は、遺跡中心域と呼んでいる微高地の西端に位置し、石器・玉類・青銅器の製作・加工が行われていた場所であった。微高地東端の C 調査区ももの作りの場であったと考えられるが、ここでは木器と骨角器の数も多く、鉄製工具も多数出土している（鳥取県埋蔵文化財センター 2006）。微高地縁辺部にももの作りの場が設けられていた中で、目的とする製作物ごとにエリアが分けられていた可能性が考えられよう。

謝辞

公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターの西本和哉氏には辰砂の原石について、岡山県古代吉備文化財センター米田克彦氏には碧玉質岩製の円錐形碎片について御教示をいただいた。また本稿で 38,000 点余り、約 370kg の遺物を提示できたのも発掘調査担当者が現場の土を持ち帰っていたこと、さらにそれを水洗し微細遺物の選別・計量を手伝っていただいた整理作業員さんのおかげである。末筆ながら感謝申し上げます。

註

- 1) 本稿では平面分布の検討はなし得なかった。石器・玉類の個別情報については、鳥取県公式サイトととり弥生の王国推進課ページの「石器データベース」、「玉作関連遺物データベース」を「調査区」、「第 17 次」の順に検索して参照されたい。
- 2) 石斧や石庖丁などにも剥片素材のものがあるため適切な分類ではないが、ガラス質の石材を用いて小型剥片を素材とするものを剥片石器とし、それ以外のものを礫石器とした。
- 3) これとは別に敲石または台石と併用された磨石が 7 点ある。砥石石材の粗密は第 1 次調査の石材鑑定を参考とした（湯村 2002）。

参考文献

- 河合章行 2015 「青谷上寺地遺跡出土のガラス玉」『調査研究紀要 6』鳥取県埋蔵文化財センター 19-26 頁
財団法人鳥取県教育文化財団 2001 『青谷上寺地遺跡 3』
財団法人鳥取県教育文化財団 2004 『久蔵峰北遺跡 蝮谷遺跡 岩本遺跡』
高田健一 2021 「山陰における弥生時代の銅鏃—青谷上寺地遺跡出土資料を中心に—」『技と慧眼—塚本敏夫さん還暦記念論集—』塚本敏夫さん還暦記念論集事務局 1-8 頁
鳥取県 2020 『青谷上寺地遺跡 15』
鳥取県埋蔵文化財センター 2006 『青谷上寺地遺跡 8』
鳥取県埋蔵文化財センター 2013 『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告 9 玉・玉作関連資料』
湯村 功 2002 「青谷上寺地遺跡出土石器の石材をめぐって」『青谷上寺地遺跡 4』財団法人鳥取県教育文化財団 504-507 頁
湯村 功 2017a 「西高江遺跡 水晶製玉作関連遺物の再整理」『新鳥取県史 考古 1 旧石器・縄文・弥生時代』547-561 頁
湯村 功 2017b 「秋里遺跡」『新鳥取県史 考古 1 旧石器・縄文・弥生時代』372-379 頁
湯村 功 2017c 「布勢第 2 遺跡」『新鳥取県史 考古 1 旧石器・縄文・弥生時代』394-397 頁